



子犬を 飼い始めたら



AKEBONO ANIMAL CLINIC
あけぼの動物病院

犬が食べると危険なもの



大きめの食べ物
(果物、歯磨きガム)

胃まで飲み込めずに食道で止まってしまうことがあります。そのままだと食道がダメになってしまい命に関わることもあります。あまり大きいものは与えないようにしましょう



焼き鳥串
鳥の骨

尖ったものは危険です。そのままだと胃や腸に刺さることもあります。食べてしまった時は内視鏡で出さないといけません



異物誤食

遊んでいるうちにいつの間にか飲み込んでしまうこともそのままだと腸閉塞の危険があります。



キシリトール

犬はキシリトールで低血糖や肝障害を起こすといわれます



ボタン電池

子供と一緒に危険です。胃で外側が腐食して中身が漏出すると胃穿孔することがあります



ぶどう、レーズン

原因物質は不明ですが。急性腎不全を起こすといわれています



人用の薬

特に解熱剤で危険なことで有名なものがあります。たった1錠で死亡しかねません



チョコレート

特にカカオが多いチョコは注意が必要です。



ネギ類

赤血球が壊れて貧血になってしまいます



観葉植物

大体の観葉植物は避けるべきです。特にユリは急性腎不全を起こし、死亡します。花瓶の水を飲むだけでもダメです。

*他にもありますが、よくあるものをあげました。詳しくはご相談ください。

した方が良くないこと・してはいけないこと



事故

ノーリードの散歩は、非常に危険です。交通事故の原因になるだけでなく、加害者になってしまう場合もあります！



熱中症

炎天下のお散歩、車内放置は熱中症になります。車内放置はもってのほかですが、地面が熱いうちに散歩するのは控えましょう。暑さだけでなく湿度にも注意が必要です。蒸し蒸しする日は軽く済ませた方が無難です。特に鼻の短い子、太っている子、大型犬は注意が必要です。

歯磨き

小さい時から歯磨きの習慣をつけておくことは大切です。歯磨きせずにそのままにしておくと歯石が切れて歯周病になっていきます。いずれ麻酔下での歯石除去は必要になりますが、その頻度をできるだけ抑えるために歯磨きを頑張りましょう。味付きの歯磨き粉など便利グッズも利用できます。



一緒に寝ない

犬と人の関係は主従関係といわれます。犬の世界で主人は子分と一緒に寝ません。関係をしっかりと保つためにも一緒に布団に入るとはやめましょう。いつの間にか立場が逆転して人が子分になってしまうかも・・・

ソファからジャンプ

足の細い小型犬の骨は簡単に折れます。普段から高いところへは上り下りしないようにしておきましょう。



普段の生活で大事なこと

・食欲があるか確認する

小さいうちは肝臓が未発達でエネルギーを備蓄できている量が少ないです。そのため頻りに食事を取る必要があります。6ヶ月を過ぎるまでは3~4回は与えた方がいいです。



***食べない時はもう赤信号です！！
すぐに病院で対処しましょう！**

・トイレのしつけ



犬さんはトイレのしつけが比較的大変です。根気よく排尿のタイミングでトイレに連れて行くなどの対処が必要です。寝床が汚れるのは嫌うので、トイレと寝床は離れたほうがうまくいきます。

・よく遊ばせて寝かせる

最初こそ家に慣れるまでゆっくりさせてあげる必要がありますが、その後はこちらが思う以上に元気に遊びます。『よく遊んで、しっかり食べて、寝る』習慣をつけましょう。



初診の時にすること

初めての病院



初診の時に体調不良があれば、そちらの治療を優先します。家に来て10日以内の体調不良であればパルボウイルスの検査を行います。

お腹の虫を便で調べます。ある程度の量があったほうが検出しやすいです。検便の寄生虫検出率はタイミングにも影響されたり、100%出なかつたりするので、複数回の検査を行ったり、検出されなくても駆除薬を使うこともあります。(寄生していないのに投薬しても特に害はありません)



ペットショップなどで接種済みのワクチン、投与済みのお薬の確認を行います。

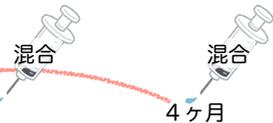
当院のワクチンスケジュール

移行抗体

お母さんの母乳からもらった免疫は生後2~4ヶ月のどこかで効果がなくなってきます。その時期に合わせてワクチン接種が必要です。

ただし、お母さんの免疫が残っているとワクチンが十分効果を発揮してくれません。ですので、お母さんの免疫が無くなっていると思われる**4ヶ月齢を過ぎてから最後の1回を接種することが大切**です。

混合ワクチンの最後の接種から1ヶ月経つと狂犬病ワクチンの接種です。狂犬病ワクチンの接種は法律で義務付けられています。



6ヶ月齢から1歳までのどこかで混合ワクチンを追加接種します。これは小さい時に接種したワクチンのブースター効果を期待するものです。これにより、免疫がより強固になります。



社会化期

いろいろなことを受け入れやすい時期です。逆にこの時期を逃すと順応させるのが難しくなることもあります。この時期にしつけを頑張りましょう。散歩はワクチンとの兼ね合いがありますが、当院では社会化を優先し、散歩可としています。

レプトスピラ感染症は野生動物の尿などで汚染された土壌などから感染します。山や川などにキャンプに連れていく場合には接種しておいたほうが良いでしょう。秋口に多いと言われるので、その1-2ヶ月前に接種すると良いです。初回のみ2回接種が必要です。このワクチンは年1回接種が必要です。

最後のワクチン接種から1年後に『抗体価検査』をおすすめしています。『抗体価』が十分な場合、その年のワクチン接種は不要です。これまでに接種してきたワクチンの効果を確かめる意味合いもあります。

必要な予防



フィラリア

蚊が媒介します。予防薬を飲むことで100%予防できます。感染した場合、治療が難しいだけでなく体にダメージも残ります。予防が大切です。福岡での予防薬投薬期間は5~12月の間です。毎月1回お薬を飲みます。



ノミ・ダニ

特にダニはSFTSというウイルス疾患を媒介します。SFTSは人にも感染し、死亡例も報告されています。感染した動物からも人へ感染します。犬さんだけでなく家族やご自身を守るためにもダニ予防は大切です。福岡での予防期間は一年中です。月1回のお薬や3~4ヶ月に1回のお薬があります。



混合ワクチン・狂犬病ワクチン

伝染病を予防します。詳しくはワクチンのパンフレットを。山、川などに連れて行くか必要なワクチンの数が変わります。



避妊・去勢手術

6ヶ月齢くらいから実施できます。女の子は子宮の病気と早期なら乳腺腫瘍も発生を抑えられるという報告があります。男の子は体の成長が完成してからでもOKです。